

昭和42年度

練成合宿
報告書

信州大学山岳会
長野山岳部

練成合宿反省文

C.L. 藤本正二

はじめに、今回の練成合宿は、横尾をベースとして穂高周辺にて合宿を行った。例年のごとく、横尾は新人合宿にとって最も合理的位置にあるのだが、上級生対象の合宿より効果的にする為には、今回の場合、洞沢の方が良かったと考えている。それ以外の地を考へるべきだと思う。同じ場所に五十名近くのものが一斉に活動を起こせば、個々のチームが持っている良き悪きも共に解るという面はあるが、僕はやはりチームのカラーの出せる合宿を持つことが大切であると思う。

それと共に、~~今~~合宿で、多く二年生に見られるのだが、全体としてトレーニング不足が感ぜられる。意欲不足も見られたがそれをあえて否定はしない。なぜなら、小登りは単に山へ何回も登ることだけが目的ではなく、心を持つ人間が、心か山に対してその情熱を注いだかに拠って反省せられるべきものであると思うからである。

今合宿で得られなかった新人との接触の無かった点を我々はどこかでカバーしてはならない。

また来年の新人合宿がどのような形態であっても、この五月連休の良い時季上いかによい点をしっかり個々が考えぬいた末に計画立案する態度に是非忘れずに欲しい。

練成合宿の行動

4月29日

all 信大で新人と共に徳本峠をこえる。峠では先ほどまでふっていた雨もやみ徳本峠では何年ぶりか穂高の峯を見せた。その日は明神まで。

4月30日

前日と同じパーティで各々8時30分くらいに出発。嶺尾の昨年と同じ所に全員でBC設営。その後天気がいいので風をネしたり、マメをシュウリしたり。

5月1日 (練成合宿お、日記、全員、男女別行動)

3:15 エッセン

4:00 出発

4:25 徳本峠

5:45 週沢 一本

↳ 雪上訓練 (キックステップ、ストップ)

9:35 一本 パラ

10:40 B.C.

朝からどうもおかしいと思っていた空もよすが昼までもたなかった。それに加えて雪質があまりにも悪くキックステップをしてもボソボソはいてしまうのでどうしようもなかった。後はテントの中で飯とミーティング。外は雨。

5月2日 (全員) 男、女、週沢まではロッシェ

3:00 エッセン

3:35 出発

4:35 本谷出合 一本

5:35 週沢 一本

↳ 雪上訓練 (

8:55 一本 パン、ジュース

9:25

雪上訓練 上部をコンテニユアス、その後「グザード」
 12:10 一本 あり
 1:40 B,C
 9:35分より北尾根偵察隊出発、
 パーティ C.L. 藤本、加藤、大谷、守間、
 9:35 涸沢出発、
 10:15 5.6のゴル 一本
 11:55 千峰P. 一本
 12:30 涸沢
 3:00 B,C.
 今日も相変らず雪質悪し、ホソホソと足加
 うまる。天気は快晴おんなじ真黒。

5月3日 (沈・矢野、入山若 向後、井原、小林)
 ビバーク隊出発、L.金子、加藤、記録は後)
 3:00 エッセン
 3:55 出発
 4:45 一本
 5:30 一本 涸沢着
 雪上訓練、スックスツフ、ストップ
 6:50 コンテニユアス出発、
 7:30 6.7のゴル着 一本 ガイルはせず、
 8:20 一本、5.6のゴル着 アイゼンはせず。
 9:00 涸沢着、一本、パン、
 9:30 涸沢出発、
 11:00 一本 直登ルンガ中間部
 12:00 北穂P着、一本 アイゼンをつける
 12:35 一本、白出のゴル着
 1:10 涸沢山通過
 2:30 一本、北穂南峰手前
 3:00 北穂P通過
 3:30 東稜ゴジラの背下部 一本、
 北穂沢に向。マ シリセード、
 4:30 横尾谷の橋 一本、
 5:10 B,C着

5月4日

2:45 エッセン、この後2 partyに分れて出発。
C.L. 井原、藤本、市野、大谷、矢野、Party.

3:40 出発

4:30 一本、出合、

5:35 洞沢、一本、

6:00 アイゼンを付け、5・6のゴルにむかう。

7:10 北尾根5峰P、一本、10分

4峰の岩場が目前にある。

8:15 3・4のゴル着、ここを1時間特に出る

9:10 出発

10:25 前穂P、一本、10分、

10:45 出発、

12:00 泉穂 一本、

1:10 白出コル 一本、オーバーホールをかける

1:25 洞沢ヒュッテ、

2:40 B.C.

5月5日

5:00 エッセン

7:00 出発

9:40 着、洞沢

↓
雪上訓練

11:10 2つに分れて出発

C.L. 藤本、小林、安間、矢野、

12:30 一本、東谷の好線上、

1:40 北穂P、1本

2:55 本谷出合、一本、

3:40 B.C.

5月6日

3:00 エッセン

5:55 出発、

6:45 一本

8:00 本谷右保、

↓
雪上訓練、10分、

10:00 右保 出発、

10:30 本谷出合
11:30 B(右岸)を通りて帰る。
6月7日(下山日)
4:00 エッセン
6:00 出発
7:00 一本
7:50 バスターミナル。

↓
バス
電車と松本につく。
↓

装備報告及び反省

市野 友明

いつものことばかり気づいた点及び反省点を掲げてみます。
この反省が春山にもかざれることを切に望みます。又部員各自の胸
に、この練成合宿があえて残雪の残高で行われたということも、
今一度問い正して下さるよう。

練成合宿がSACとの兼ねあいの結果(多分に各部及び我が部のト
ザー部員のコミュニケーションの不足により、入山間際まであまり
しなく、そのことが合宿に大きく影響したことは言うまでもないこと
であるが)地理的に何の目新しいところもない、又生活技術
においてもあまりに郡谷のより積尾で行なわれたことは春山
を思うと大きな問題を提示している。計画書の装備係の豊
を読んでいただけ、この合宿の装備に関して反省すべき点かどの
ようなものであったかわかると思います。

具体的に掲げてみましょう。

I 登攀用具

I シュリンゲ 4m - 2, 2m - 4 (共に右い麻 11mm)
使用量 無のため又使用するようなルートとトレースしなかつ
た為問題はなし。

II ミツ道具

充分すぎる程の量はありましたが練成合宿の故、多量に問
題なし。

III. S&L 化繊と麻、クレモナ 計10本

雪上訓練使用の為 麻、クレモナを計7本。

II エッセン用具

I ホエフス 5台(うち ロバーク田 1台)
このうち1台はハンドルの鉛がとけ出して、使用不可能
(修理不可能)な為 実際4台でロバーク田が去て
いる時は3台であって、ESSENの時間には問題が
ありません。

積雪時に、このようは破損があこれほどどうなるか。鉛の部分ほ修理が難であります。付んとうの倉地多いにあります。ホエフスに因してほ春山までほ石油火器に切りかえるか未だ佐子氏が考慮中であるが、あえていへば、ホエフスに対して本格的に取組めば、ほるかに石油火器に比べすぐれているという結果をみると思います。より安全な石油火器に進むよりホエフスを深く研究し、より大切に扱えば、身近かにある良い装備に本当に愛情を見い出さずしょう。

ロ その他

細いことについては、ナベ(ツタ)を、まな板の代用にするべく考慮するのも大切なことです。

Ⅲ 設営用具

う五日の装備係である人間がテントのシートを完全に合わせて行かなかったことは誠に申し訳なく甘い魚があつたのではないかと深く深く反省してします。

Ⅳ その他

トランシーバーを持って行かなかったこと。現在のトランシーバーが完全なものではないとしても合宿には必要かと思ひます。今合宿は工学部のトランシーバーをあてにしていましたか春山以外の故障がほあらず、入山にまに合わけなくトランシーバーは山に行かず下界で春山に授けていました。

Ⅴ 燃料

従来通り Gasoline 1人1日 0.182は充分にありました。からたき1日 2時間以内 必要と認めれば 0.182は必要です。からたきしなければ1日 0.162であります。ロソク(60本)ほ 燃焼時間1日3時間として4日ほ充分にあります。メタ(50円のもの)ほホエフスが調子よければ1ヶでホエフス4台に代つて、使用できます。しかし、常にホエフスが調子良いとは限りませんから4台では1日1ヶがよいでしょう。

Ⅵ テントワークについて。

このようなことを装備係である人が云々するのは、今合宿のテントワークがと大なものであつたばかりし、いはいかうです。計画書に携けた際に「完璧な装備をもって入山し、誤まりは絶対に認められない」と、しかし誰一人として計画書を読んで

入山したか疑わしい現状でした。仮にエボアスの事故は
なかったとしても、それを誘発することは多くあった様に
思います。夏用テントの広い場所でありながらエッセン時
の周囲の雑草、テント内でローソクをゆらすこと、個人装
備の整理などを考えれば、狭い冬用テントのことを思
えば、背筋がぞっとしてきます。

Ⅳ 個人装備について。

計画書にあえて掲げなかったことは、私のまちがひ
でした。でも、掲げなかったことがまちがひであったと
反省させる理由が何であったか、練成合宿には2年生部
員以上が参加した筈です。入山前日にロケットが
足りない、入山中は他人の個人装備を借りる。下山後
は団体装備を翌日に部屋に持ってこない。これら
のことは各隊員の自覚を持っているには、あまりに遅
すぎ、ここに述べるに割りました。

- ⑥ 係の反省 (装備係) 疲気競技
市野さんに全く協力しなくて本当に申し訳けなかったと思います。
グラウンド・シートが2日間ばかりなくて失礼致しました。
- ⑦ 自己反省
口に出すのもはなかしい気持ち 入山1日にして自分のあやまちか
ら石油をのんでしまったこと 一生忘れられないあの石油の味、
新人と持することがなくていけなかった。

女子10-テ、コース、タイム

記録 藤沢通代

4月29日 起床 3:30 エッセン 3:50

島ヶ原 6:05
 本谷 45~55
 , 7:45~55
 , 8:25 (両足着用)
 , 9:00~:15
 , :45~:50
 , 10:35~:45
 , 11:45~:55 (17分経過)
 , 12:25~:35
 , 1:20~:35
 , 2:15~:30
 3:15~:30

峠着 5:05 ~ 5:20

テニ場着 7:20

エッセン(夜) 8:30

就寝 11:00

4月30日 起床 6:00

エッセン 7:15~35

出発 8:30

徳沢 9:10~30

おこ前 10:25~40

テニ場着 11:30

ネル 8:00

5月1日 起床 3:00

出発 4:00

本谷橋 4:40~50

江沢 6:05~8:30

テニ場着 9:05

エッセン(夜) 3:45

ネル 8:00

5月2日 起床 2:40

エッセン 2:45~3:00

出発 3:45

一本 4:35~:45

江沢 5:40

一本 9:00

江沢着 12:50

テニ場着 3:00

エッセン 5:30

1 ネル 7:40

5月3日 起床 2:40

エッセン 2:50~3:10

出発 3:45

本谷 4:25~:35

江沢着 5:45

訓練始 6:05

屋ノシ 7:50~8:30

一本 9:15~9:30

江沢着 9:30

(唐沢岳へ)

一本 10:25~:35

江沢着 11:45~12:10

出発 12:10

ヒノク着 12:30 ~ :50

江沢着 1:10 ~ :20

本谷橋 2:35 ~ :45

テニ場着 3:15

エッセン 3:50 ~

ネル 7:50

OG 玉井、井原、荒井氏が来テン。

5月4日 ~ 7日 記録係下山のため

記録とれません 4日

でした。イカンなことと思っております。

穂高周遊ピクニック隊記録

金子 (Leader)
加藤

5月3日

AM 3=45 ~ 5=40 テント飛 ~ 三ツ沢着

6=00 ~ 6=50 三ツ沢 ~ 5.6のジル

7=00 ~ 8=00 ~ 3.4のジル

この間、時間待ち、昼食

10=50 ~ 12=50 ~ ピーク

PM 1=20 ~ 3=30 前穂ピーク ~ 白出のジル

4=00 雪洞を使用する。

5=00 エッセン。(ガスってくる。)

6=30 就寝

北尾根4峰には春使ったらしい fix が (8mm. 10mm.)
200m ぐらいあったが 技術的な問題は殆ど無かったが時間
待ちで時間がかかってしまい 3.4のジルでは 11 匹迄のみに30分も
かかり結果的に 5.6のジルから前穂ピークまで6時間かかり
ました。又3峰11mm. に取付くなら 3.4のジルを下回る。しかし 5.
6のジルから又白の方へは 雪崩の危険が多分にあるから不可能
です。

5月4日

AM 6=40 ~ 7=45 白出のジル ~ ロバの巨とシヤンの
ジル着

~ 8=45 天狗のジル着

~ 10=00 西穂ピーク

~ 11=00 昼食

● 11=00 ~ 1=00 ピーク ~ 天狗のジル

4=30 白出のジル着

5=00 ~ 6=30 白出のワシ ~ 三ツ岳ワシ

6=40 ~ 8=20 三ツ岳ワシ ~ B.C

昨日の遅いをとりもどそうと、不要なものはすべてテポシ西穂へと急いだ。アゼンがきく快適な後継岳を楽しみ、中継岳の西穂にウハ人でいっほい、ゆっくりと昼メシを食う。これが俺らの定めよ、とばかりに気をとりにあし、今朝も西穂を目指して、赤い化飯のサイルでア ガイレンとして気分をひきしめるのもつかの間、層がくさり、雪衣がイヤらしい。下川は植垂にスカットで行動し、白出のワシにたどりついたのが 何と 4=30 PM。11品アゼンをしなおし 時向的に遅いがせめて北穂のヒコウを踏もうと三ツ岳に向かう。三ツ岳のワシで下川に決定し、日の光で B.Cへと急いだ。帰天が遅い 皆様に多分は御心配をおかけした事を反省しています。政治的にみて西穂の後継も何ら何れはく 2万坪の人々の良い縁成になると思う。一度 残雪の岳頂に B.C とあき 岳頂 側をゆっくりせめるのも 穂高の新しい分野を知る チャンスだし又 知る価値もあると思いますが - - - - - 。

5月5日 市野・向後 赤沢山

僕は新人の春、初めてこの尾根をみた。
P5から眺めると大作り立派な尾根だ。
その時以来いつかいつかみたいと思ひ、今回そのチャンス
を得た。

- 7:05 横尾ベースキャンプを出發。天気 微風 快晴
8:00 一の岳。
~20
8:40 二の岳。はじめ、22から取りつくともりたが
スッシュが小とすぎ、もう少し捨沢を渡ることにする。
9:00 捨沢小屋より、少し手前、目標の尾根へつきあゆる雪
~40 のつまった手頃なルンゼがあった。
陽も高く残り 体から汗がにじみでるので うあきに
行って出發。
10:30 昼食。ルンゼも ほぼ中間点に達する。湖沢とち
~50 がい人が全くいない。本当に静かな山行だ。
ソーダラップがのどにしみる。
12:00 ビバーク・サイト 目指す尾根に近づくと シュアル
~30 がある。すぐ前には人が通ったのか、又、D.A.A.C.の
赤旗が新しく 二の岳 方向に下りてある。ちよ
とシュック。夕方ランバの木の窪地にテント・サイト
を作る。ここは風があまり当たらないところ。
13:00 かぶり橋のある尾根だ。くさった雪をラッセルしながら

~ 30

ら行くと 急に視界が広がる。赤沢のピークは タダシ

広い所だ。稜高・標の北鎌・東鎌とほぼ同じ最高。遠く
後正の山々も見える。蝶の稜線上にレンズ雲が發生。

14:30

明日の午に西岳の降路を偵察に向い、その足でビバークサ
イトへ。風が少し出てモク様だ。はい格の小枝を切り
寝床にしく。まだ日陽が少しあるがちっとおきてきた。
炊火をしよ。から格の小枝を折り、夕ヶカニバの皮をた
まつけにする。くまびりながら燃えている。

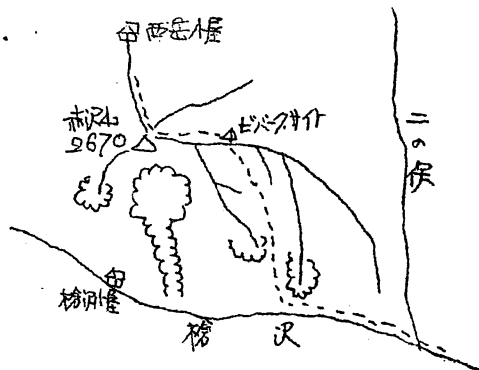
Essenを倉いツェルトをみぐる。尾には着点の星。明日は
西岳より東鎌へ下るつもりだったが、市野がモシレ
ハシャクを折ってしまつて下道をもとるとにある。

5月6日

5:00

目がさめるともう陽がのぼっていた。今日も快晴だ。
湯をわかして朝のEssen。撤集。時計をみるときまわあ
いて立っている。昨日若帝レトルンでもタリモードで
一緒にあべりありる。

又、人の世界に戻。た感がある。捨沢から降りてくる
パーティーと合ふ。昼は単調な道とベースF向の黒々と
歩いた。



練成会宿 感想

よいやす たかあ

- 何を考え、何をどんな方法で行為に表わすか、自分を含め部員全員に訴えたい。もっと具体的に言えば、何を求め、どんな行為をどのような方法で態度に表わすかである。
- 何かを行うにあたって、それ自身に自主性がなくてはならない。具体的に言えば、自分からやる気があるかどうかである。

練成会宿 反省

青不郁生

- 新鮮味に乏しい会宿でした。2年生にとって。
- 自己にも他人にも厳しさが足りなかった。
今回の会宿は、いろいろと反省することがあります。自己に対して。しかしお氣にめぐまれて、山が楽しく又楽しかった。黒い岩 青空 白い雲 強い日光 そんな観望でした。いつの日か二人でそんな観望へ行きたい。風爐をしたい。たわいもないことを話しながら。

守田泰治

- 失敗に終わった会宿。まず新人・石本 伊藤の進行にも向にその凡が映っていたこと。更に悲しい風景でした。山岳部から人間関係が崩壊したら何が残り残かとしてア2にあまりに一般のおルードレス。このことは練成会宿として会宿にオソ私でした。場前の設定が誤った感じもしやうが。いやいやどうでもありません部として。これしかやれなかったのでは無いでしょうか。もっと各自の奥力をのびしませう。

